

文化庁月報

No.397

2001年10月号 CONTENTS

特集

国際文化交流・

人と組織のネットワーク

10 〔巻頭言〕 持続的な国際文化交流を目指して

村田直樹(文化庁国際課長)

11 〔インタビュー〕 新国立劇場芸術監督

栗山民也氏に聞く

13 〔事例紹介〕 イクロムを通じた文化財研究のネットワーク

三浦定俊

15 奈良国立博物館における国際交流

梶谷晃治

17 〔報告〕 二つの国際交流年

―英国における「Japan2001」と

日本におけるイタリア2001年

文化庁長官官房国際課

20 〔インタビュー〕

在日豪州大使館文化担当官

キヤサリン・フニョー氏に聞く

文化アタッシュのネットワーク

今月の表紙

英国における「Japan2001」イベント参り公園
の中の日本館
©Cerant Lewis

新国立劇場スポットライト／45

十一月の国立劇場／46

芸術文化振興基金ニュース／47

11月号予告／編集後記／48

ACA NEWS

国民文化祭・ぐんま2001	36
文化芸術活動への寄付について	37
第43回教育文化週間	38
第48回文化財保護強調週間	38
第51回全国民俗芸能大会	38

イベント案内

京都国立博物館 特別展覧会 ヒューマン・イメージ ―われわれは人間をどのように表現してきたのか?―	39
国立国際美術館 主題としての美術館 ―美術館をめぐる現代美術―	40
奈良国立博物館 正倉院展	41
京都国立近代美術館 生誕100年記念 小松均展	42
東京国立博物館 名品を手軽に楽しむ ―日本工芸の至宝堂オープン―	43
東京文化財研究所 第32回 東京文化財研究所芸能部公開学術講座	44

連載

●文化庁長官佐々木正峰の 文化人と語る① 平山郁夫さん(画家)	4
●Cross Road 松本零士さん(漫画家)	23
●ことばの万華鏡⑨ 恐れがあります	水谷 修・26
●文化の現場から⑦ 劇場へ ―舞台芸術を身近に感じる社会をめざして―	中川俊宏・27
●まちに生きるミュージアム⑦ 求められるミュージアムマネジメント	大堀 哲・28
●キーワード事典・アートマネジメント⑦ 文化施設にとって「ニーズ」とは何か	伊藤裕夫・30
●保存修理の社会学・2① 社会との共生	32
●日本の伝統美と技を守る人々―選定保存技術保持者編⑦ 広瀬敏雄・金江宗太郎(金江宗観)さん	34

Cross Road



松本零士

さん

(漫画家)

漫画は誰にもまねできない個性だ

あらゆる環境を自らの資料とすることで、戦後の混乱期を強く生き抜き、独自の漫画世界を創出してきたという。その個性の原点はどこにあるのか

戦中に五歳のころから 外国のアニメを見ていた

——子どものころから漫画界で活躍だったとうかがいましたが、どんな子ども時代だったのでしょうか

小学校三年か四年の時に小倉市報に載った「納税促進マン」で初めて賞金三五百円をもらいました。漫画も好きでしたけれど、すでに五歳の時に「クモとチュリップ」というアニメーションを見ていまして、これのすり込みが強かったのと、私は七人兄弟の真ん中だったので、空想科学小説や少女漫画がたくさんあったり、父親の昆虫図鑑、植物図鑑、天文学の本がたくさんあるような環境にいました。これも父親の趣味ですが、映写機とフィルムが当時の私の家にはあって、戦争中にも関わらず、ミッキーマウスやポパイ、ベッティーさんなどのアニメを見て育ちました。

——このようにして漫画の仕事につかれたので

食料難の中で、稼ぐことが目標になっていた

すか

一八歳のときに東京に出てきました。そのときはもう雑誌連載をもっていましたね。

子ども時代に戦後のものすごい食料難のなかで親は必死に働いてました。それでも食べるものがないという恐怖感のなかで生きてきたので、稼ぐということに早くから目覚めていました。中学生のころから、そこら中にボスターやチラシなんかを描かせてもらう仕事をもらっているうちに雑誌に載るようになったんです。

——同年代の漫画家同士、仕事上の影響というのはあったのでしょうか

それはありません。一人ひとりが一国一城の主ですから、人は人、我は我なり、されど仲良く、でした。もちろん、何でも模倣から始まりますから、先輩の影響は途中まで残りますが、創作、オリジナリティ、個性の確定にはそれら乗り越えなければなりません。それを乗り越えるにはそれまでの自分の体験がモノを言うてくる。何のためにこれを描くか、断固たる自分の思いを描き始めて、初めて個性というものが確立できる。大げさなえば、個性というものは世界に類があってはいけません。自分だけでなければいけない

です。

——これが自分で壁を突き抜けたと思われた作品はどれになりますか

私にとってその個性とはなにかというところからいいた方がいいです。環境の悪い時代でしたから、だからうつされたかは分からない。当時は下宿していたのですが、そのときにはおれの青春はどうなるんだと真つ暗になっていた。本当に大変だったのです。そうしたら、新聞の記事に「白癬菌」という学名が出ていまして、それを知って薬局に行つて「白癬菌の薬を下さい」といって薬を買いました、何のことはない、すぐ直つてしまったんです。

そして、しばらくたってからそれを「何のために描くか」に応用したんです。だれでもなることがあるのだから、その言葉を平然といえる世の中にしたい、と。それが『男おいどん』という作品でした。これは実生活に裏打ちされていますから、描くことには絶対の自信がある。文字通り「いんきんたむし物語」というのは世界最初だと。シェークスピアもトルストイも夏目漱石も書いていない。これ

個性というものは世界に類があつてはいけません

が世界最初だと、創作とはこれをいうのだとね。

そのときにはつまり自覚したのですが、これがうまくいかなければ自分は漫画家としてうまくいかないと。

結局これが個性なのです。そこに自分が子どもの頃からあがれていたことを応用して被せていつて、その後の世界ができていったのです。

——個性と裏付けが大切なんですね

H・G・ウェルズの『生命の科学』という全一九巻二万ページくらいあるシリーズがあります。これは宇宙の発生から生命の誕生までわたる論文なのです。これを読んだときに生涯最大の恐怖感に打たれました。それまでウェルズというのは空想科学小説家だと思つていたのが、その正体は大学者だった。空想科学物語を書くためには学者としての資質と知識の集積がなければできなかつたのです。

私の弟は工学博士で、その方面の専門家として、私が果たせなかつたもう一つの夢である現実の機械工学の専門家になるというのを弟が果たしてくれた。私は映像で果たした。私が描いたものを弟の研究所に送ると、しば

日本アニメの水準は上がったが、これからは世界が対象だ

らくして「あなたが嘘ともいえない」なんて書かれて帰ってくるわけです。だから、みんな裏付けがあるのです。それをいかに面白く映像化、画面化するかが漫画家の方の創作というもののなのです。

——最近フランスのバンドであるダフト・パンクのプロモーションビデオやアルバムジャケットなどを手がけられたそうですが。

彼らはここまで来てくれました。五歳のときに自分の親と一緒にキャプテンハーロックを見ていたと、そしてああいう映像を自分たちの音楽で展開させてもらえないかと、言ってくれました。

私がアメリカのアニメーションに触発されたのがやはり五歳でしたから、運命というのは網の目のようにつながっているのです。

——今、日本の漫画やアニメは世界で高い評価を受けていますが、先生はこれをどう受けとめますか

日本のアニメの水準が上がったのは事実ですね。しかし、地球上六〇億の人口の中にはたくさんの方が隠れているはずですから、これからはわかりません。

——これからの若い漫画家やアニメーターはどうやって道を拓いていけばいいのでしょうか

一に個性、二に個性ですね。個性で勝つしかない、自分しか描けないものをつくらなければならぬというのが絶対条件です。これからは世界が対象ですからオリンピックのように選抜の基準が厳しくなっていくでしょうね。類似品が簡単に出るようではだめなんです。それは絵だけではなくてフィロソフィの問題です。創作の世界は結局世界最初でなければいけない。自分しか書けない世界を確立しなければならぬ。

——これからの複雑な現代社会の中で作品を描いていくにあたって注意しなければならぬことは何でしょうか

それは思想、宗教、信条、民族感情というもの全部頭に入れて、その上で、描きたいこと、自分の信じることは確固として描く。しかし不用意な軋轢を生むようなことはしないということです。だから私は歴史を学べと言っているのです。それを踏まえたうえでないと共感を得られないでしょう。

それに、絵は道具が描くものではありません。絵は心が描くのです。物語は人間の心が書くのです。このことは徹底して自分の中にたたき込んでおかないといけないと思います。

(インタビュー／構成／文化情報部)



「宇宙海賊キャプテンハーロック」より
(秋田書店版)

まつもと・れいじ／福岡県小倉生まれ。日本漫画家協会常任理事。中央青少年団体連絡協議会会長。日本宇宙少年団理事長。昭和29年に「蜜蜂の冒険」で漫画少年第1回新人王。高校卒業後少女漫画「黒いはなびら」「銀の谷のマリア」などを執筆。33年、18歳で上京。47年「男おいどん」で講談社出版文化賞漫画部門賞を受賞し、一躍有名になる。53年「銀河鉄道999」で小学館、日本漫画家協会の賞を受ける。その後の作品「宇宙戦艦ヤマト」「キャプテンハーロック」等は漫画、アニメーションで大ブームとなる。他の作品に「1000年女王」「アレイの鏡」など。平成6～9年隔月刊誌「少年王」に「ダナサイト999」を連載、同年ビデオでのアニメ化が決まる。10年「銀河鉄道999」が映画化。同年4月からはインターネット上に「ハーロック・サーガ」を連載。11年アニメビデオ化される。10年から大阪府特別顧問を経て、現在、大阪府立大型児童館ビッグバン館長。12年、漫画やアニメーションのデジタル化に伴う知的所有権保護のルール作りのため、デジタル漫画・アニメーション協会設立準備委員会を結成。

◆特集◆

文化の香りに満ちた
新世紀日本の建設に向けて

【巻頭言】

文化の香りに満ちた

新世紀日本の建設

文化庁次長

【解説】

平成一四年度概算要求について

政策課

文化芸術創造プラン

(新世紀アートプラン)について

芸術文化課

文化発信について

国際課

社会全体による文化芸術の支援

政策課

なぜ今、芸術文化の振興なのか

山崎正和

求められる文化発信

青木保

●文化人と語る②

澄川喜一(彫刻家)

●Cross Road

内田めぐり(日本画家)

●「こころ」の万華鏡③

水谷修

●まごころのミコシアトル④

美術館・博物館と学校の連携を考える・廣瀬隆人

●キーワード・事典・アート・マネジメント⑤

小林真理

●文化財保存修理の社会学・2

金出ミチル

●日本の伝統美と技を守る人々

―選定保存技術保持者編⑧―

村田九郎兵衛(蒔絵筆製作)

東浅太郎(研炭製造)

●文化の現場から⑩

伝統文化課調査官・佐々木正直

編集後記

文化庁に国際課が設置されてから九か月が過ぎました。この間、中央省庁改革に当たって文化庁に求められた「国際文化交流においてより重要な役割を果たす」という大きな任務をいかに果たしていくのか暗中模索の日々を重ねて来ました。

今回 原稿執筆依頼やインタビュー

ユーを通して、様々な立場で国際文化交流を担っておられる方々に接し、交流の在り方に関して貴重な示唆を賜うとともに、交流に取り組むむきな姿を垣間見ることができました。これらの方々の情熱に文化庁はどのように応えていくのか、国際課の責務の重大さを再認識した次第です。

(M)

文化庁では、ホームページで、文化庁に関する情報を幅広く提供しています。ご意見、文化庁月報の感想などを、ホームページのご意見欄や文化庁のウェブマスター宛へお寄せください。

〈ホームページアドレス〉
http://www.bunka.go.jp/
〈ウェブマスターメールアドレス〉
webmaster@bunka.go.jp

文化庁月報 10月号

(通巻397号)

平成13年10月25日印刷・発行

編集—文化庁

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2

発行—株式会社ぎょうせい

本社 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12

本部 〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-16

電話 編集 03(3571)2126

販売 03(5349)6666

URL: http://www.gyousei.co.jp

印刷所—㈱行政学会印刷所

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、筆者個人の見解であることをお断りいたします。

定価540円 本体514円 送料76円

年間購読料6,480円

本誌のご購読のお申し込みは、直接弊社の本・支社、あるいは最寄りの書店へお申し込みください。

広告の問い合わせ・申し込み先

㈱ぎょうせい営業部広告課

電話03(5349)6657 (ダイヤルイン)

©2001 Printed in Japan ISSN 0916-9849

本誌は本文用紙に再生紙を使用しております。